

令和6年3月27日

足立区立第十二中学校
校長 上岡 祥邦 様

足立区立第十二中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 井門 明洋

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

重点的な取組事項1「学力向上アクションプラン」について、到達度確認テスト結果における数学・英語の正答率の低さは残念な結果であった。教師の「指導方法の見直し」を課題としてあげ学校として組織的に授業改善に取り組むとあるが、確実に取り組み生徒の学力の定着を図ってほしい。また、学習コンテストにおける各教科合格率目標はすべて達成しており、日頃の指導の成果が表れていると考えられる。今後も継続した取り組みを願いたい。また、サタデースクールについては、開かれた学校づくり協議会も協力し、来年度も継続して開催したい。

重点的な取組事項2「キャリア教育の推進」について、「自己有用感の涵養」は、9割以上の生徒が肯定的な回答を寄せており、大変良い結果であった。しかし、「将来への希望」についての肯定的な回答が2/3程度に留まっていることに関しては、原因をしっかりと分析し、生徒が将来に確かな希望をもち学校生活を送れるよう必要な取組みをしていただきたい。また、「生徒の夢が大人に否定されることが多い」と「保護者啓発の必要性」を掲げているが、「何をどのように」「どんな方法で」行っていくのかが問われていると考える。

重点的な取組事項3「不登校・不適応対応」について、特別支援教育推進委員会の定期的な開催や「キャッチアップルーム」や「スマイルルーム」の活用した組織的な対応が行えていることは評価できる。しかし、「学級満足度」が50%にも満たない現実をしっかりと受け止め、学校全体で総力を挙げ取り組んでいただきたい。

重点取組項目4「生活指導の充実」について、生徒が安心して学校生活を送れるよう、教員ひとりひとりが確固たる信念を持って取り組んでいただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

自己効力感の涵養について、生徒質問での肯定的な回答が低いことは、自信の無さ」故に現れた結果であると分析している。また、発問の仕方や方法を学校して考え実践していくとのコメントにあるように長期的な展望（とはいえ、3年間という限定された期間ではあるが）をもち、効果的かつ生徒が意識をもって取り組みことができる内容が求められると考える。全学校の課題としての意識付けが望まれる。

「保護者・地域への期待」について、家庭、学校、地域が一丸となって生徒の成長を支えることが重要であり、保護者を含めた家庭、地域に対する力強いメッセージが欲しい。

3 その他

家庭、学校、地域が一丸となって取り組むためには、情報の共有のみならず、認識の共有が不可欠である。今後、学校には積極的な情報発信、情報提供とともに、認識を共有する機会の拡大にも努めていただきたい。

以上のことを踏まえ、令和6年度は、学校や教員の思いがこれまで以上に生徒に伝わるとともに、家庭や地域からの支援も多く受けることで、生徒がより主体的に学び、学校生活を有意義なものと感じ、健やかな成長を遂げられるような教育環境となるよう期待する。